



一般社団法人

日本人間関係学会ニュース 第110号 発行日: 2026.2.22

News No.110 Japan Association of Human Relations February 22, 2026

発行: 日本人間関係学会 広報委員会 E-mail: tanikawa@kusw.ac.jp 関西福祉大学 谷川和昭研究室

事務局: 〒799-2496 愛媛県松山市北条660 聖カタリナ大学人間健康福祉学部 釜野研究室

E-mail: jahrijimukyoku@gmail.com URL: <https://jahr.jp/>

【内容】☆巻頭言 ☆全国大会特集 ☆エクスカッション(語り旅) ☆ともに老いゆく② ☆北から、南から ☆理事会議事録 ☆事務局だより

《巻頭言》

日本人間関係学会第33回全国大会の開催報告

大会委員長 山崎 将文
(京都橘大学教授)

日本人間関係学会第33回全国大会は、2025年9月13日(土)と14日(日)の両日、京都橘大学の啓成館で「新たな人間関係の構築に向けて—人間の尊厳を問い直す—」をテーマとして開催されました。大会参加者は58名に達し、盛況のうちに終えることができました。これも、早坂三郎理事長をはじめとする本学会の理事及び会員の皆様方のご助力があつてのことです。この場を借りまして、皆様方に厚く御礼申し上げます。

さて、今回の全国大会は、その先駆けとして、佐々木かなこ・語り旅部会長の企画により、大会前日の9月12日(金)のエクスカッション(語り旅)から始まりました。その内容は、京都御所迎賓館のガイド付き見学と、護王神社での大会の成功祈願及び宮司の講話聴講というものでした。その後、京料理を味わう懇親会も京都ガーデンパレスにおいて11名の参加者をもって盛会に開催されました。

9月13日(土)は、10時からの開会式に続き、私の基調講演「人間と動物の新たな関係—大会テーマの趣旨説明を兼ねて—」と、実行委員会企画①、特別講演として黒田幸也氏をお招きして、「装束文化の継承—京都の御祭りをとおして—」というタイトルでご講話いただきました。午後からは、実行委員会企画②として、三好良子先生による「人間力&関係力を磨く GWT(グループワークトレーニング)—人は人と関わることで変わる—」と、企画セッション・ラウンドテーブルも三会場ですれぞれ行われました。その後、総会が開催され、2024年度事業報告、2025年度事業計画

案が審議されました。また、2024年度の決算報告・会計監査報告及び2025年度の予算案が承認されるとともに、「人間関係士」資格体制と事業運営についての説明もなされました。総会終了後、情報交換会(懇親会)が学内のクリスタルカフェにおいて29名の参加者を得て賑やかに催行されました。

9月14日(日)は、午前9時から、13件の口頭発表・実践発表が行われました。その後、開催大学企画として、西本泰久先生・齋藤汐海先生により「PUSH(心肺蘇生)講習会」が多くの参加者のもとで執り行われました。午後からは、実行委員会企画③、特別講演として松原仁先生をお招きして、「人間は進歩したAIとどのような関係になるか」というタイトルでお話しいただいた後、シンポジウム「新たな人間関係の構築に向けて」(シンポジスト・目黒達哉先生・三好良子先生・早坂三郎先生、コーディネーター・永野典詞先生)が開かれました。その後、表彰式が挙行され、午前中の発表者の中から、永野典詞先生が優秀賞を受賞されました。この後、閉会の辞が述べられ、解散となりました。

総会では、次回第34回全国大会が杉本太平先生を大会委員長として宇都宮共和大学で開催されることが承認されましたが、今後、前大会委員長としてつつがなく大会を引き継いで参りたいと存じます。

最後に改めまして、第33回全国大会にご協力いただきました皆様方に心から感謝申し上げます。有難うございました。

保育から AI、装束文化まで分野の垣根を超えて集結 第 33 回全国大会に見る、深化する人間関係学の探求

新たな人間関係の構築に向けて 一人間の尊厳を問い直す―

2025 年 9 月 13 日（土）・14 日（日）の 2 日間にわたり、京都橘大学において、「日本人間関係学会 第33回全国大会」が開催されました。AI 社会の到来やペットの家族化など、揺れ動く「人間の尊厳」を多角的に問い直す、極めて密度の高い大会となりました。

■ 第 1 日目：伝統と先端、そして自己との対話

【開会式・基調講演】 冒頭、山崎将文大会委員長より、本大会のテーマである「人間の尊厳」への趣旨説明がなされました。現代における動物や AI への法的地位の議論に触れ、既存の枠組みを超えた「新たな人間関係」の再考を提唱。続く早坂三郎理事長からは、国際紛争や急激な AI 化の波が押し寄せる現代社会における人間関係学の役割と、「人間関係士」資格養成体制の見直しについて、学会活動への理解と協力が呼びかけられました。午前の基調講演では、山崎将文大会委員長が登壇。ペットを「家族」と見なす社会変化や動物の法的地位に関する議論を例に、人間関係学が切り拓くべき新たな可能性について、示唆に富む提言が行われました。



【実行委員会企画】 午後は、多角的な視点から人間関係を紐解く 2 つの企画が実施されました。

実行委員会企画① 特別講演：株式会社黒田装束店 第 19 代当主・黒田幸也氏を招聘。「装束文化の継承」をテーマに、400 年以上の歴史が紡ぐ装束に込められた「祈り」の精神を通じ、日本文化の深淵に触れる貴重な機会となりました。



実行委員会企画② GWT セッション：三好良子会員（人材育成コンサルタント）による「人間力&関係力を磨く GWT（グループワークトレーニング）」。

参加者が楽しみながらワークに取り組み、他者との関わりの中かで新たな自己を発見する体験の場となりました。

また、企画セッションやラウンドテーブルでは「瞑想箱庭療法」「ヴェーダ哲学」「保育現場のソーシャルワーカー」など、多岐にわたるテーマで活発な議論が交わされました。



■ 第2日目：多角的な研究発表と未来への展望

2日目は4つの会場に分かれ、多様なテーマによる口頭・実践発表が行われました。

【口頭発表・実践発表】

第1会場（保育・教育・福祉）：永野典詞会員（保育SWと人間関係の考察）、原子純会員（幼小接続）、立花直樹会員（障害児保育）、白石京子会員（5歳児健診から見える発達相談）、丸谷充子会員（母子保健における保健師連携）らにより、現場に即した報告がなされました。

第2会場（医療）：末國明美会員による医療従事者の喫煙習慣とストレス分析、田中典子会員による不登校における身体症状と医療・教育連携の重要性など、臨床的知見が共有されました。

第3会場（社会・文化）：藤田毅会員（地域教育実践の検討）、加藤誠之会員（「福田村事件」を題材とした歴史教育）、大森孝志会員（教会内での人間関係）など、文化・歴史的視点から人間関係を捉える発表が並びました。

第4会場（グローバル・先端技術）：中川祐志会員（架空の物語からのASD特性分析）、広田佳与子会員（日本のランドスケープと少子高齢化）、田中康雄会員（外国人技能実習生の人材育成）など、未来社会の課題を浮き彫りにする刺激的な報告が行われました。

※本大会の口頭発表優秀賞には、永野典詞会員の個人発表が選出されました。

【特別企画・シンポジウム】

PUSH（心肺蘇生）講習会：西本泰久先生（医師教員）と齋藤汐海先生（救急救命士）の指導により、AEDの使い方や胸骨圧迫を実践。人の命を救う勇気（PUSH）を通じて、他者との関係性を問い直しました。



特別講演：松原仁先生（京都橘大学）が「人間は進歩したAIとどのような関係になるか」と題して登壇。AIをコントロールする重要性と、AIと共生する未来こそ「人間とは何か」を深く考える時代になることが説かれました。

シンポジウム：永野典詞先生をコーディネーターに、三好良子先生、目黒達哉先生、早坂三郎先生の3名が登壇。SNS時代の対面での「傾聴」や、「生きがいと利他」の視点から、新たな人間関係構築への具体的な指針が示されました。



■ 総括

本大会は、保育・医療・文化・AIといった異なる領域を「人間の尊厳」という共通の軸で繋ぎ合わせる、極めて有意義な対話の場となりました。変化の激しい現代社会において、対面でのコミュニケーションや利他の精神といった根源的価値を再認識するとともに、未来に向けた新たな指針を共有し、盛況のうちに幕を閉じました。

2025年度 日本人間関係学会エクスカーショント（語り旅）を終えて

佐々木かなこ（語り旅部会）

過日、9月12日に、今年度のエクスカーショント（語り旅）を無事に終えることができました。今年は、京都御所迎賓館のガイド付き見学と、平安京造営に尽くした和気清麻呂を祀る護王神社で、全国大会の成功祈願と宮司の講話を聴くという内容でした。その後に、京料理を味わう懇親会を行いました。

翌日から始まる大会の企画スローガンが、「京都らしいもの、京都橘大学らしいもの」であったため、この主旨に添いエクスカーショントを計画しました。

京都迎賓館の、日本を代表する秀逸な装飾調度品や優美な日本建築、和の心を表す庭園に息をのみながら、そのすばらしさに浸りました。水面から背びれを出して泳ぐ鯉にもみやびの舞を魅せられたような気がしました。90分の見学ののちに、御所と王を護る意味を持つ護王神社に向かい、大会の成功を祈願する祈祷を受けました。宮司からのお話では、和気清麻呂の「我獨慙天地（われひとりてんちにはず）」の人となりをお聞きし、自肅自我を心がけ謙虚に正しい道を歩む人柄をしのび、生き方の示唆を得た気がしました。

その後、神社の隣にあるガーデンパレスに移動し、京料理の懇親会を行いました。そのガーデンパレスは、もともと京都橘大学の前身である京都女子手藝学校の発祥の地の傍でもあり、不思議な縁を感じながら、「京料理は目で食べる」のとおり、優美な料理に舌鼓をうちました。

本来、「語り旅」部会は、学会創設者の茨木俊夫先生（故人）が大事にされた部門で、「知らないところに出かけ、飲食をともにしながら車座になって語り合う」ものでした。近年、「語り旅」は、大会の前夜祭の意味も兼ねるようになり、大会開催校のある地域の歴史、文化、暮らしに触れる機会へと変容してきました。

（文責 佐々木）



シリーズ「ともに老いゆく」（その2）

地域の「応援」がつなぐ、多世代の居場所づくり

シリーズ「ともに老いゆく」の第2回をお届けします。今回は、本学会の副理事長であり、NPO 法人とらい・あんぐる理事長も務められる三好明夫先生、そして現場を支える常勤理事の石田栄子さんをお招きし、京都市北区・紫野にある「寄合処（よりあいどころ）」での活動について、お話を伺います。

地域に開かれた居場所の新しいカタチ

【出席者】 三好 明夫 氏（日本人間関係学会副理事長/NPO 法人とらい・あんぐる理事長）

石田 栄子 氏（とらい・あんぐる常勤理事/調理師/介護福祉士）

谷川 和昭（日本人間関係学会理事 広報委員会委員長：司会進行）

谷川：三好先生、石田さん、本日はよろしくお願いします。三好先生には、本学会の副理事長としての活動に加え、京都の紫野で「寄合処」という素晴らしい居場所づくりを実践されていますね。まずは、この「寄合処」がどのような場所なのか、教えていただけますか？

三好：よろしくお願いします。私たちは大徳寺近くの民家を拠点に、「居場所づくりプロジェクト」を進めています。1 階ではランチや喫茶、夕方には「子ども地域食堂」を開き、2 階はサークル活動や授乳・お昼寝もできる多目的スペースとして開放しています。単なる「支援」や「介護」ではなく、私たちがしたいのは「応援」なんです。誰もがふっと立ち寄り、誰かとつながれる、そんな「第三の居場所」を目指しています。

谷川：石田さんは実は本学会の会員でもあられ、調理師、そして介護福祉士として現場を支えていらっしゃると思いますが、日々の活動の中でどのような手応えを感じておられますか？

石田：はい。平日のランチは日替わりのワンコインメニューを提供していますが、ご近所の 90 代のご夫婦がお昼だけでなく夕食にも立ち寄ってくださるなど、食を通じた交流が自然に生まれています。また、ユニバーサルデザインフード（UDF）の勉強会を開催した際は、子どもから高齢者まで役立つ食のあり方を地域の方々と共に学ぶことができました。単に食事を出すだけでなく、みんなで笑い、話し、つながりを育む時間を大切にしています。

谷川：ニュースレター〔次頁に掲載〕を拝見すると、夏には浴衣の着付け教室や「花火フェス」、秋にはマルシェ、冬には「食育 de クリスマス」など、本当に多彩な活動をされていますね。

三好：そうなんです。特に「花火フェス」は若い世代にも線香花火の魅力を伝えたいと企画したのですが、夏祭りを上回る賑わいでした。また、8 月 9 日には「80 年前の広島」をテーマに語り合う場を設け、オンラインも活用して遠方の参加者とも有意義な時間を共

有しました。こうしたイベントを通じて、世代や立場を超えた多様な方々が集まる場へと成長してきました。

谷川：若い世代、特に学生さんとの関わりも深いようですね。

石田：ええ。高校生ボランティアさんが、大人と子どもの「架け橋」になってくれています。お年寄りのためにギターの弾き語りを披露してくれたり、イベント運営を積極的に手伝ってくれたり……。また、三好先生のご縁で清明高校の学園祭に参加した際は、生徒さんたちが放課後に寄ってくれるようになり、活動の輪が広がっています。

三好：学生の卒論に地域の方が協力したり、学生から新しいアイデアが寄せられたりと、まさに「協働の場」ですね。夕方になると高校生や大学生が自然と集まって、思い思いに過ごしていますよ。

谷川：最後に、これからの展望をお聞かせください。

三好：私の「三方よし」の精神のもと、地域の暮らしに寄り添い続けたいと思っています。寄合処のガラス戸には、「今を生きる“カッコいい大人”から、これからを生きる若い世代を応援したい」というメッセージを込めています。縁が「円」となってつながっていく、そんな温かい場をこれからも育てていきたいですね。

谷川：まさに「ともに老いゆく」を体現する、希望に満ちた実践ですね。三好先生、石田さん、貴重なお話をありがとうございました。

（2026.2.9）

寄合処のガラス戸に書いたメッセージ…今を生きる“カッコいい大人”から、これからを生きる若い世代を応援したいという思い、そしてご縁が円となってつながっていく願いが込められています。三好理事長の「三方よし」の精神のもと、地域の暮らしに寄り添い、つながりを育む居場所づくりを続けてまいります

とらいあんぐる寄合処

キーワードは 3つの「えん」
今を生きるカッコいい大人から
これからを生きる若いみなさんへ応援
つながるご縁が、3つある「円」になるように。
このつながりを
とらいあんぐるで
作り出します。
三方よし = 三好理事長の
熱い思いなのです。



特定非営利活動法人とらい・あんぐる『寄合処』
ニュースレター

2026
VOL.1

NEWSLETTER

理事長 三好 明夫
発行者 石田 栄子

ご挨拶

私たちが取り組む「居場所づくり」は、地域の皆さまの協力によって日々育まれています。気づけば、世代や立場を越えて多様な方々が集い、自然と会話が生まれる場へと成長してきました。本紙では、そんな日々の積み重ねの一端を紹介させていただきます。

寄合処

京都市北区・紫野の大徳寺近くの民家を拠点に、「居場所づくりプロジェクト」を進めています。1階では平日のランチや喫茶、夕方には子ども地域食堂を開き、子どもから高齢者まで気軽に立ち寄れる場を目指しています。2階は展示やサークル活動、授乳・お昼寝にも使える多目的スペースとして開放し、本の貸出やフリースペースなど、地域の方が自由に過ごせる環境を整えています。私たちは、必要なときにふっと立ち寄り、誰かとつながれる場所でありたい。その思いから、この「寄合処」を開設しました。

介護だけでなく、介助だけでなく、支援でもなくて…したいのは応援



平日のランチは日替わり10食限定のアンコインメニユー。午後はカフェとして豆乳おからドーナツが人気です。夕方は「子ども地域食堂」を開き、手頃な料金で家庭とは少し違う料理を楽しんでいます。1階の時間を大切に、つながりを育む場づくりを続けています。

夏頃はカレーを開放し、涼んで頂ける遊園スペースとして冷房を提供。ご近所の91歳のご主人と84歳の奥さまは、お昼だけでなく夕食にも立ち寄ってくださいました。子どもたちや若い世代の来でが地域の方とお話ししたり、夕食づくりを手伝ったり、打ち合わせや宿題をして過ごさずにも見られます。

「ここだと一人で来られる」「何かほっとする」と言われる気軽な立ち寄れる第三の居場所。夕方には高校生や大学生たちが自然と集まり、思い思いに過ごしています。「こども110番の家」としての安心に加え、多様な専門職が関わる強みを活かし、地域の「生活なんでも相談室」のような存在でありたいと思っています。



地域の方と一緒にイベント準備を進めたり、学生の卒論に地域の方が協力したりと、寄合処では学生と地域がともに学び合う関係が育っています。寄合処をより知ってもらったための取り組みやアイデアも学生から積極的に寄せられ、まさに協働の場として位置づけられていると感じています。

地域の力が、ゆっくりめぐる小さな拠点

高校生ボランティアさんは、大人と子どもの間に立つ「架け橋」のような存在です。寄合処で活動する生徒さんは、自分から積極的に関わりをもってくださいます。始めたばかりのギターを一生懸命練習し、出会ったお年寄りのために弾き語りを披露してくれたり、盛り付けやイベント運営にもすすんで参加してくれたり…その姿のいつも励まされています。日々の活動を支えてくれる高校生のみさんに、心から感謝しています。



REPORT

JULY



「自分で浴衣を着たい」「着る機会がない」という声を受け、浴衣の着付け教室を開催しました。季節行事を楽しみたい、久しぶりに浴衣に袖を通したい、それぞれの思いを持った方が集まり、和やかな時間が流れました。



8月9日の長崎原爆記念日には、理事の香川氏を招き「80年前の広島」をテーマに語っていただく香島。2階ではオンライン視聴も可能にし、遠方の参加者も交えて有言義に語り合いました。



今年も京都府認証を受けた商店街を盛り上げる活動に参加し「寄合処」からはおぼんざいやカフェメニユーを提供しました。終了後の18時から、三好先生こと「さんちゃん's」Barを開店、地域の声に応える新たな集いの場になっています。

DECEMBER



政府調米を活用したフードバンケット、18歳以下の子どもに1世帯5kgのお米を無料配布する「食育 de クリスマス」を開催しました。食育を通して、栄養の大切さや生産者・家族への感謝を伝える機会となりました。

AUGUST



町内の協力でチラシを配布し、当日は子どもから大人まで約60名が来処しました。地域が簡易化する地域で、交流の場・子どもの居場所として役立ち、「子ども地域食堂」を知っていただく良い機会にもなりました。

SEPTEMBER



「手作り小物を販売したい」という声を受けて、フリマとマルシェを開催しました。野選の出店が急遽なくなる場面もありましたが、新たなつながりが生まれ楽しい1日となりました。

NOVEMBER



京都府立清明高校のつばめ祭に参加しました。三好先生の教育実習巡回をきっかけに生まれた縁から、数人の生徒が放課後に寄ってくださるようになり、今回の参加につながりました。多くの方に来ていただき、おかげさまで販売となりました。

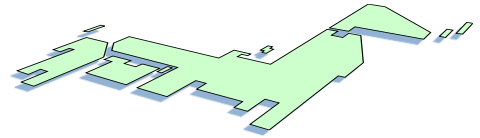
とらいあんぐる寄合処

寄合処のガラス戸に書いたメッセージ…今を生きる“かつ”いい大人から、これから生きる若い世代を応援したいという思い、そして縁が円となつてつながっています。三好理事長の「三方よし」の精神のもと、地域の暮らしに寄り添いつながりを育む居場所づくりを続けてまいります。



https://npo-try-angles.com/

北から、南から



「教育の目的は、若者が一生を通じて自分自身を教育し続けられるようにすることだ。」

—— ロバート・メイナード・ハッチンス (教育哲学者)

対人援助職としての日々

—関係学理論と臨床発達心理学からとらえる人間関係力—

白石京子 (日本医科学大学校/親子心理教育研究所/人間関係・HRST研究会)

私は、乳幼児健診や保育巡回相談、教育相談、家庭裁判所における家事調停など、さまざまな対人援助の現場に携わっている。こうした現場では、専門知識や制度への理解に加えて、人と人との関係性にもどのように向き合うかという力、いわゆる「人間関係力」が、支援のあり方を大きく支えていると感じている。

関わる人々の多くは、不安や迷い、少なからぬ緊張を抱えながらその場に立っている。相談者は「きちんとできているだろうか」「何か指摘されるのではないかと心配し、「自分の思いは受け止めてもらえるだろうか」「否定されないだろうか」と揺れている。そうした中で、援助者がどのような言葉をかけ、どのような姿勢で関わるかは、相手の安心感や信頼感に静かに影響し、その後の関係性や支援の進み方にもつながっていく。

私の実践の拠りどころには、関係学理論と臨床発達心理学がある。

関係学理論(関係心理劇)では、「今・ここで・新しく」という視点を大切に、過去の出来事や評価にとらわれすぎることなく、その場で生まれているやり取りや関係性の動きに目を向けていく。関係の中での仮想現実体験(行為法)を重ねることで、気づきや洞察が育ち、新たな人間観が形成されていく。そこに力点を置いて進めている「人間関係HRST研究会」(会長:杉本太平 顧問:佐藤啓子)に所属し続け、20年近くなる。

一方、臨床発達心理学は、生涯にわたる発達の可塑性や、過去・現在・未来へと続く時間の流れを含めて人を理解し、包括的な支援を大切にしている立場である。この視点は、目の前の困りごとを単なる「問題」として切り取るのではなく、その人が歩んできた道のりや、これから開かれていく可能性に目を向けることを支えてくれる。

こうした二つの視点に立つと、対人援助とは単なる技法ではなく、相手が「ここでなら少し立ち止まって考えてもいい」「自分で選んでいい」と感じられる関係の場を共につくっていく姿勢そのものだと感じられる。人間関係力とは、人を変えようとする力ではなく、その人が本来持っている力が関係の中でそっと立ち上がってくるのを見守り、必要なときに寄り添いながら伴走していく力である。「困ったときには相談してもいい」「SOSを出してもいい」と思える支援を大切にしながら、対人援助の現場で学び続ける日々である。

「北から、南から」のコーナーでは、 会員の皆様からのご寄稿をお待ちしております！

お寄せいただきたいのは、**A4用紙・半枚から1枚**。多少オーバーしても大丈夫。

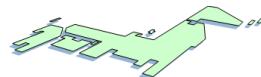
日々の生活で感じたことや、思い浮かんだこと、作品などお便りに載せてください。

1月末までにご寄稿いただいた分は、2月発行のニュースレターに掲載いたします。

7月末までにご寄稿いただいた分は、8月発行のニュースレターに掲載いたします。

送付先 広報委員会（谷川）まで tanikawa@kusw.ac.jp

北から、南から



【会員の本紹介】



（みらい 発行、2025年12月14日、A5判/
128頁、定価2,750円・税込）

田中康雄 著『介護職不足を解決しうる外国人材育成の最適解』

深刻化する介護人材不足に対し、現場はどのような「解」を見出すべきか。本書は、2025年に施行が注目される新制度「育成就労」を見据え、外国人材の受入れと育成のあり方を多角的に論じた一冊である。

著者は、外国人材本人、介護施設、監理団体の三者に対する大規模なアンケートおよびインタビュー調査を実施。それぞれの立場から浮き彫りになった課題を詳細に分析している。特に、従来の技能実習制度における課題を整理した上で、新制度下での「最適解」を具体的に提示している点は、今後の介護経営や政策研究において極めて示唆に富む。

第1章で現状とテクノロジーの可能性を俯瞰し、第2章から第4章にかけて三者それぞれの視点から実態を解明。第5章では新制度「育成就労」の特徴と具体的な育成手法を、第6章では将来の展望を論じている。エビデンスに基づきつつ、現場の「救世主」となりうる外国人材の活用の道筋を示した、研究者・実務家必携の書といえる。

令和7(2025)年度 第2回日本人間関係学会理事会議事録

日時：令和7(2025)年6月28日(土)10時30分～11時45分

方法：Zoomによるオンライン会議

出席者：伊賀、占部、佐藤、佐々木、杉本、鈴木、田中(典)、田中(康)、谷川(和)、永野、早坂、藤川、山崎の13名、そして6名の理事から理事長一任の委任状が寄せられ、計19名の参加となり、理事会は成立した。（敬称略・50音順）

・理事長挨拶：今年の全国大会の概要も決まったので、ご理解とご協力を頂きたい旨の挨拶及び人間関係士資格の体制確立に向けての協力要請が述べられた。

【協議事項】

1. 第33回全国大会の準備状況と依頼事項について：①日程及びテーマ、そして申込手順等についての変更はなく、案内の掲載内容等についての説明があり、審議の結果、承認された。
②エクスカージョンについては暑さも予想されることから、迎賓館等の見学並びに京都の古を学ぶ講演と懇親会の計画案が述べられ、審議の結果、承認された。
③研究口頭発表者に余裕があるので、発表者を増やすことへの協力要請があった。

2. 人間関係士資格制度及びガイドブックについて：①ガイドブックの発刊の予算案が示されたが、テキストに終止せず、印税についての取り扱い及び一般販売される著書としての発刊予定についての確認の質問があり、これを受けて再度、印刷会社との確認・調整をすることとなった。
②全国大会総会時の資格についての説明のための時間設定の確認がなされた。
③上級者資格認定については資格に関する専用の銀行口座が設定されたので、早急に上級資格資格証の発行に関しての登録料の送金手順の設定を進めることとなった。
④資格ガイドの公表と初級申請及びその手続き並びに研修講座の準備・開設を進めていくことが、審議の結果、承認された。
尚、この資格関連の講座について、依頼機関との「同意書」の取りまとめ案の作成にも取り掛かることとなっている。

3. 次回第34回全国大会の開催機関について：自薦他薦の推薦機関がなかったので、理事長から人間関係士資格制度が本格稼働する次年度ゆえに、資格委員会委員長の杉本理事が所属されている栃木県の宇都宮共和大学での開催が提案され、審議の結果、異議なく承認された。これを受けて、杉本理事から快諾の旨の意思表示が述べられた。

4. 会員の入・退会について：入会希望の2名について、審議の結果、異議なく承認された。

5. 次回理事会開催予定を、口頭発表等の7月15日の締切後の7月19日㊥11時30分より開始とすることが了承された。

6. その他：①学会年度会費請求書の記載内容について、大学等での手続き上、年会費請求文書に年度・学会名・費用明細の記入もその要件とすることが確認された。
②事務局のメール等の受信に際しての受信確認と対応の徹底が求められた。
③谷川広報委員会委員長より学会ニュースへの理事会議事録掲載が提案され、審議の結果、異議なく承認された。
④全国大会の際の宿泊ホテルについて問い合わせがあり、草津の「ボストン・プラザホテル」の名前が挙げられた。
⑤理事長から、全国大会への広告協賛が呼びかけられた。

7. その他：特になんことが確認された。

【報告事項】

1. 関西・東海地区会82回記念研究会開催について報告があった。
2. その他では、特になんことの確認を以て、今回の理事会を終了した。

令和7(2025)年度 第3回日本人間関係学会理事会議事録

日時：令和7(2025)年7月19日(土)11時30分～12時30分

方法：Zoomによるオンライン会議

出席者：伊賀、占部、加藤、佐藤、佐々木、杉本、鈴木、田中(典)、谷川(和)、早坂、藤川、目黒、山崎の13名、そして6名の理事から理事長一任の委任状が寄せられ、計19名の参加となり、理事会は成立した。

尚、資格委員会事務局の立俵氏の陪席が承認された。（敬称略・50音順）

・理事長挨拶：今年度の全国大会のスケジュール調整が進み、また口頭発表者の応募も想定数を越えたので、引き続いての全国大会へのご理解とご協力依頼及び人間関係士資格体制の充実とガイドブック作成に向けての協力要請が述べられた。

【協議事項】

1. 第33回全国大会について：全国大会の詳細なプログラム案が説明され、審議の結果、異議なく承認された。口頭研究発表者についても想定の実参加者数に達した旨の報告があり、早速に査読依頼と発表者の会場構成、そして座長・副座長の依頼等の手順への着手が告げられた。

同時にプログラム・発表要旨集の作成及び広告協賛についての手順も確認され、8月中旬を目途に校正後の学会HPへの掲載計画が諮られ、審議の結果、異議なく承認された。

尚、エクスカースョンについても京都の古を学ぶ鑑賞会と講演、そして懇親会の計画についての紹介があり、審議の結果、異議なく承認された。また、参加要請があった。

ついては、今後はHPへの案内掲載期間が1か月弱となったことを受けて、大会事務局とのメール等の送受信に際しての確認の徹底が、理事長より求められた。

2. 人間関係士資格制度及びガイドブックについて：①ガイドブック発刊のための見積もり額が説明されたが、今後の校正手順、会員への送料額の概算、ページ数の増加の見積り等を加えた再見積りについての印刷会社との打合せを行った上で、再度、資格委員会での確認・調整に基づく決定に一任することが、審議の結果、承認された。

上級者資格認定については資格に関する専用の銀行口座が設定されたので、早急に上級資格証の発行に関する登録料処置の手順を進めることが、審議の結果、異議なく承認された。

3. 会員の入・退会について：1名の退会希望の報告があり、審議の結果、異議なく承認された。

4. 次回理事会開催予定について：全国大会開催前の9月6日(土)10時30分より開始とすることと併せて令和6年度事業報告案及び同年収支決算書案と令和7年度事業計画書案及び同年予算書案をご審議頂きたい旨の依頼と説明が理事長よりなされ、異議なく承認された。

5. その他：特になんことが確認された。

【報告事項】

1. その他でも、特になんことの確認を以て、今回の理事会を終了した。

令和7(2025)年度 第4回日本人間関係学会理事会議事録

日時：令和7(2025)年9月6日(土) 10時30分～11時40分

方法：Zoomによるオンライン会議

出席者：伊賀、大石、鈴木、田中(康)、田中(典)、谷川(和)、早坂、藤川、森、山崎の10名、そして4名の理事から理事長一任の委任状が寄せられ、計14名の参加となり、理事会は成立した。（敬称略・50音順）

・理事長挨拶：引き続いての全国大会への理解と協力の依頼があり、また人間関係士資格のための「ガイドブック」の作成に向けての協力要請が述べられた。

【協議事項】

1. 第33回全国大会の開催準備について：大会の詳細なプログラム及び口頭発表等がHPに掲載されていることが報告され、六十名に及ぼうとする参加者となっていることと併せてプログラム内容及び予算を含めた運営についての説明があり、審議の結果、異議なく承認された。
併せて、理事長からは、総会での議長候補者選出の依頼があり、候補者名が挙げられた。また、総会開催予定時間を60分に短縮することが説明され、審議の結果、異議なく承認された。
また、伊賀実行委員からエクスカッションについての説明があり、加えて理事長から表彰選考委員会の開催及び選考等について説明があり、両案ともに異議なく承認された。
続いて理事長から、本学会会則に基づく役員の任期の規定の一部の表現について、「・・・総会開催の全国大会終了時まで・・・」としたい旨の提案が示され、審議の結果、異議なく承認された。

2. 人間関係士資格制度及びガイドブックについて：ガイドブック発刊のための校正状況及び今後の手順の説明があり、併せて「上級者資格申請」についての状況が報告され、審議の結果、異議なく承認された。
尚、総会での資格の説明については、欠席予定の杉本委員長に替わり三好理事が担当することになった旨、理事長から報告された。

3. 令和6(2024)年度事業報告及び収支決算報告、令和7(2025)年度事業計画及び予算案について：理事長から本理事会開催前に送信された「事業報告」と「事業計画」の概要について説明があり、また令和6年度収支決算及び進行中の令和7年度の予算案が事務局長より説明され、審議の結果、異議なく承認された。会員への配布資料の印刷・製本及びその他の準備について、理事長から大会長に依頼があった。

4. 「学会誌『人間関係学研究』の著者による論文の書籍への転載」の許可方法の確認について：学会誌投稿者からの転載要請への対応について説明があり、また今後の同様の要請に対応するための規定の作成についても審議され、承認内容を受け、転載要請への対応方法等の内容の作成について理事長に依頼された。

5. 委員長の交替依頼対応について：編集委員会の委員長交代についての要望が報告され、新委員長候補の選出については、理事長に一任することが、異議なく承認された。

6. 理事長改選方法について：予てからの理事長退任の申し出を、令和7年度の全国大会総会で提案し、「日本人間関係学会理事選出要綱」に基づいての選考に着手することの手順について、異議なく承認された。

7. 資格等の活動に伴う収益事業の対応準備について：資格「人間関係士」の運営開始に伴い、税務等への対策のための体制づくりと処理方法等について専門家への相談依頼が提案され、その選任については理事長に一任することが、審議の結果、承認された。

8. 会員の入・退会について：2名の入会希望の報告があり、条件を満たしている1名の入会は異議なく承認され、また推薦会員不在の1名についての選考は理事長及び事務局長による面接報告による審議とすることが承認された。

9. 次回理事会開催予定日時について：全国大会開催後の12月の土曜日の10時30分よりを目途に日程調整することが、異議なく承認された。

10. その他：特になんことが確認された。

【報告事項】

1. その他でも、特になんことの確認を以て、今回の理事会を終了した。

以上

事務局だより

【会員動向】（2025年3月1日～2026年1月31日）

2026年1月31日現在

会員136名（正会員：109名 一般会員：11名 準会員：16名 賛助会員：0）

〈入会者〉

正会員：6名・末國明美・松田光一郎・灰谷和代・三好このみ・立花直樹・藤田英樹

一般会員：1名・島村円佳

（敬称略）

立春が過ぎ、暦の上では春を迎えて、気持ちも軽やかになります。一方で、今年も各地で大雪の被害が報じられており、被害に合われました皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

今年は午年ですが、“うまくいく”、“舞う”、など、午年は、飛躍や成長の年とされています。当会におきましては、人間関係士「ガイドブック」の刊行、9月の全国大会などを契機とした飛躍や成長の一年になりそうです。引き続き、みなさまのご高配を各先生がたまわりたいと存じます。何卒、よろしくお願い致します。

日本人間関係学会 事務局長 鈴木満



日本人間関係学会第34回全国大会 予告

2026年9月19・20日（土・日）開催予定

18日（金）にはエクスカーションや人間関係士資格講座を予定

会場 宇都宮共和大学 大会長 杉本太平

※詳細が決まり次第、公式 HP 等で公表いたします。

人間関係士「ガイドブック」学術研究出版より刊行間近

「役割機能」を最適化し、質の高い「人間関係力」を育む

変化の激しい時代、私たちが果たすべき「役割機能」は常に更新され続けています。

本書『人間関係士 ガイドブック』は、その変化に対応し、本学会認定資格「人間関係士」として「人間関係力」を養うための理論と手法を凝縮しました。専門職としてのアイデンティティを確立し、社会的な信頼を築くための第一歩として、広く活用されることを願っています。

（編集後記）

余寒の中にも春の兆しを感じられる季節となりました。今号は、他者との絆を大切にする「世界友情の日（国際友愛の日）」に合わせてお届けします。先行きが不透明なVUCAの時代だからこそ、かつての実験キャンプが大きな運動へ繋がったように、本学会での小さな知の交流が、春の芽吹きのごとく豊かな社会を築く礎となれば幸いです。皆様とのご縁に感謝し、さらなる研鑽に励んでまいります。（谷川）